

発刊にあたって

神奈川県自然環境保全センターは、森林を中心とした自然環境の保全と再生を推進するため、企画から事業実施、普及啓発、研究の各部門を備えた中核機関として、平成 12 年度に創設されました。平成 22 年度には県庁組織の再編により、水源の森林づくり事業と分収林管理の部門が加わり、県内の森林等自然環境の保全と再生について、より一体的に取り組む組織となりました。

「自然環境保全センター報告」は、日々の業務から得られた様々な成果や自然情報及び知見を県民の皆様や他の行政機関等に提供するとともに、記録・保存することを目的に作成しております。

神奈川県下において、原始的な自然を有する丹沢大山地域では、自然環境の劣化が依然として継続しており、県では「丹沢大山自然再生基本構想」に基づき策定した「丹沢大山自然再生計画（神奈川県）」を 2007 年（平成 19 年度）より実施し、ブナ林の再生、野生生物の保護管理、自然公園の適正利用、あるいは県有林の整備や管理など様々な事業に取り組んでいます。2012 年（平成 24 年度）より計画は 2 期目を迎え、これまでの知見やモニタリング結果を踏まえた、より効果的な取り組みを推進しております。

また、県では水源環境の保全・再生を目的として、平成 19 年度から水源環境保全税を導入し、水源の森林づくり事業をはじめとする特別の対策に取り組んでいます。

当センターでは、森林再生部門で水源の森林づくり事業の推進及び総合調整を進めておりますが、研究部門では、水源環境保全・再生施策の効果検証のために、水・土・森林植生や生態系の評価も含めた総合的モニタリングを実施し、植生や土壌保全の観点から整備効果を検証するとともに、検証結果を水源林整備技術の改良に結び付けております。

今回発行する第 12 号では、調査・研究報告として、この水源環境保全・再生施策の効果検証の「東丹沢大洞沢の水文地質と流出機構」、「東丹沢大洞沢における治山事業による水文観測の記録」のほか「大山モミ採種園の造成と種子生産」、事業報告として「ワイルドライフレンジャーの取り組み」などを掲載するとともに、その他業務で得られた結果を資料として紹介しております。

当センターでは、今後とも自然環境の保全と再生に関わる業務や研究内容の充実に努めるとともに、成果や業績につきましては、本報告書以外にもホームページなどで紹介しておりますので、ご意見をいただくとともに、業務等の参考としてご活用いただければ幸いです。

平成 26 年 3 月

神奈川県自然環境保全センター所長 益 子 篤